

活かす通信

2024年5月(202号)

<http://npo-icas.com/>

★★

巻頭言 篠田憲明(元時事通信政治部)

トリプル補選「全敗」で岸田降ろし

★★

岸田文雄総理大臣は困月8日から14日までの約1週間にわたり、安倍晋三総理(故人)以来となる9年ぶりの「国賓」として米国を訪問し、バイデン大統領との日米首脳会談やその前後には大統領主催の公式非公式な夕食会、さらには、マルコス・フィリピン大統領を含めた日米比3カ国の首脳会談及び、米国の上下両院議員を前に議会演説などに臨んだ。

日米首脳会談後の共同声明では「日米のグローバル・パートナー」をうたい上げた。要するに、米国の負担を我が国も分担しよう、という相当大胆な内容を含んだものだ。9年前の安倍氏とトランプ氏との会談をまとめた「日米のグローバル・パートナー」をより具体的にしたもので、「乾坤一滴の勝負」(岸田側近)に出たわけだ。首脳会談後の共同声明や英語による議会演説の評判も良かったとされる。つまり得意で派手な外交、落ちっばなしの内閣支持率再上昇を目論んだが、首相帰国後のマスコミ各社の各支持率はほとんど変わらず、上昇した社は少なかった。昨年春のウクライナ電撃訪問後急上昇したのは、全く違った。問題は今度の日曜日28日投開票の衆院東京15区、長崎3区、島根1区の「トリプル衆院補選」の結果である。東京15区、長崎3区は不戦敗、焦点は衆院島根1区。故細田博之前衆院議長死去に伴う、いわば弔い選挙なので、故細田氏の後継候補者は有利なはず。しかし、各紙の選挙情勢報道は、立憲民主党の前職・加盟亜紀子氏が自民・公明が推す錦織功政氏より有利とのこと。最近はその差が小さくなっているようで、20日には人気者の小泉進次郎元環境相に続き、21日には岸田腫瘍が直々に候補者のテコ入れに現地・島根入りした。この選挙区で負ければ、首相の政策運営にも直接影響を与え、自民党内岸田降ろしの動きが出てくるのは必至だ。

さらに酷いことがある。最近の急激な「1ドル=150円乗せの円安」の評判が悪い。「首相の国賓訪米」や「20カ国財務大臣・中央銀行総裁会議」などが米国・ワシントンで開かれ、このため政府は口先介入しかできなかった。もはや口先介

入しても意味がない水準なのか、超円安は放置したまま。「岸田首相は外交音痴。円安に苦しむ庶民の気持ちをわかろうとしないとの認識が定着してしまう。もはや小手先の人気取りでは支持率回復は望めない」（首相側近）とショックを隠し切れない。岸田首相に対する若者・女性の支持率が極端に低い。このまま衆院を解散して選挙に流れ込むのは「女性や若者が投票に行ったら、負けは確実であろう」との声が自民党内では圧倒的多数だ。

にも拘らず、岸田氏は意気軒高であり、訳が分からない不気味さがある。幸か不幸か、今秋の自民党総裁選で出馬するだろうと思われる候補者は、茂木敏充幹事長、河野太郎デジタル行政改革担当相、高市早苗安全保障担当相らだろうが、いずれも党・内閣の執行部ばかり。また、現在は派閥が存在しない状況では岸田氏への脅威にならない。それよりも、川上陽子外相だ。女性であるのと才能には長所があるが、やはり自民党の要職をこなしていないのが欠点。しかも「岸田出馬を遮ってまではしないだろう」（自民党幹部）との見方が有力である。

（憲）

★★

勝池レポート アジア資産運用アドバイザー 勝池和夫

「インド経済を変える二つの AI」

★★

これからのインド経済は以下の二つの AI で劇的に変わりそうです。

●一つ目の AI は、Artificial Intelligence（人工知能）です。左の写真でモディ首相と面談している人物は、人工知能向け大手半導体メーカーのエヌビディアの CEO ジェンセン・フアン氏です。昨年 9 月にインドを訪れた同氏は、首相の他インドの大手財閥リライアンス・インダストリーズやタタ・グループ、そして IT 大手のインフォシスのトップとも会い、AI 分野での提携を発表しました。

エヌビディアは 2004 年にインド進出し、現在は 4 拠点で約 3,800 人を雇用しています。加えて 32 万人が同社の開発プログラムに登録しています。今回の提携ではインドでの大規模言語モデルの開発や生成 AI アプリなどの構築で協力する計画です。更に提携企業の従業員の AI 技術教育も同社が担う予定です。

フアン CEO は、「インドは AI 分野で世界の原動力になる変わり目にいる。今後数年でインドの最大の輸出品目が AI になる可能性がある」と述べています。現在は石油製品や宝飾品が最大の輸出品目ですから、インドの産業構造も大きく変わりそうですね。

●二つ目は、Advanced Infrastructure（急速なインフラ整備の進展）です。右の写真でモディ首相が掲げているのは、今年の総選挙のために BJP（インド人民党）が用意した選挙公約（マニフェスト）です。その中の、「国際的なレベルのインフラ整備の約束」で、鉄道に関する主要部分を抜粋します。

①鉄道路線の延長—過去 10 年、路線を 31,000 キロ延長した。今後 10 年は毎年

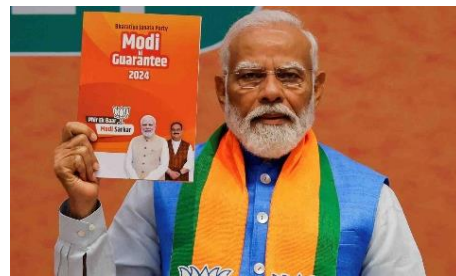
5,000 キロ延長する。

② 駅の改修—現在 1,300 の鉄道駅を改修中。今後は中規模の駅も世界水準に改修する。

③ 地下網の拡張—過去 10 年間に 20 以上の都市で地下鉄が開業した。今後は地下鉄が利用できる都市を更に増やし連結性を向上させる。

④ 高速鉄道網の拡張—現在建設中の日本の新幹線方式を採用した高速鉄道の経験を活かし、インドの北、南、東の地域でも高速鉄道の実現可能性調査を行う。

また、「スポーツ振興の約束」では、2036 年にインド初のオリンピック招致、競技場などのスポーツインフラ整備などが盛り込まれています。



このように、インドの経済は二つの AI で、目に見えて変化していくと予想されます。以下の写真左はインド工科大学ボンベイ校にて開かれた、エヌビディアの DLI (Deep Learning Institute) 主催の講習会の模様です。右は改修中のニューデリーの鉄道駅の内部と外観のデザインです。インドでは、まさにこれから二刀流の AI による経済のトランスフォーメーションが起こりそうです。



模の資金流失が起きていると伝えている。その恩恵を受けていた半導体受託生産を受けていた台湾積体回路製造 (TSMC) の決算が好調にもかかわらず、18日に売り込まれた。18日の米国のフィラデルフィア半導体指数 (SOX) が2ヵ月ぶりの安値を付け、売りが波及した。TSMCの決算 (1~3月) は市場を上回るものであったが、半導体業界全体の見通しを引き下げたことが大きな要因と言える。一方で「市場は好決算を織り込んでいた」「ここにきて過度な生成AI (人口知能) に対する期待がはげた」との指摘もある。これを受けての東京市場の半導体関連の雄「東京エレクトロン」の株価は19日に5営業日の続落し、前日比3530円安 (9%下落)、東京市場の急落の最大要因となった。東京エレクトロン自体は、足元の受注は好調で2月の時点では24年3月期の連結純利益の従来予想を330億円上方修正している。決算発表は連休明けの5月10日の予定。相場調整局入りが危ぶまれる中、19日の前場「イランで複数の爆発音」との報道があり、下げ幅は拡大し一時1300円を超えた。土日に何が起きるかがわからないだけに、機関投資家は半導体ポジションを投げ売りした。イランとイスラエルの応酬は本格的な戦闘に発展する可能性は少ないと思われるものの投資家サイドは最悪の事態に備え始めた。自主減産している原油価格のWTI価格は1バレル86ドルまで上昇してきている。また金価格の高騰も続き、地政学リスクの受け皿として3000ドル説が浮上している。東京市場は止まらない円、日銀の金融政策が待たれている。4月20~21日 (日) が日銀金融政策決定会合の日にあたる。ここで多少金利を引き上げても、市場はその先の政策を要請してくるだけに、対応は非常に難しい。米国の金利引き下げ説 (当初6月) が大きく後退しているだけに、日米金利差の縮小ということにはならない。今回の急落で高値から10%程度下落 (36800円水準) で済んでいる (19日現在) しているので、スピード違反の調整の範囲といえる。これが15%以上の下落に転じるとなると、シナリオを変える必要が出てくる。ここにきて日経平均の構成する銘柄の一株当たり利益が下方する流れがみられる。5月連休明けが決算本番、当分は様子見状態とみて良い。これから3ヵ月位は、36500円から38900円程度のボックス相場を想定し、押し目買いに徹したい。金融株・電力株・電力設備投資関連に注目したい。(純記)

今月の映画の紹介 :

3月は11作品を見ました。累計は34作品となりました。印象に残った作品は、52ヘルツのクジラたち、ゴールドボーイ、ドッグマン、オッペンハイマーの4作品です。他の作品は、アーガイル、マッチング (邦画)、ダーウィンが来た (ドキュメンタリー)、マイホームヒーロー (邦画)、デューン2、12日の殺人、変な家 (邦画) です。今回のアカデミー賞では、日本映画「ゴジラ-1.0」が邦画初の視覚効果賞、ジブリが「君たちはどう生きるか」がアニメ賞を受賞しました。紹介作品は第81回ゴールデングローブ賞最多5部門受賞し、アカデミー賞に13

部門にノミネートされ、7部門で受賞した「オッペンハイマー」です。この作品は、ピューリッツァー受賞作「オッペンハイマー」を原作とし、第二次大戦下、世界の運命を握った天才科学者オッペンハイマーの栄光と没落の生涯を実話に基づいた作品です。2023年7月の封切り以降、世界興業収入10億ドルに迫る世界的大ヒットを記録し、実在の人物を描いた伝記映画としては歴代1位となっています。第二次世界大戦下、アメリカで立ち上げられた「マンハッタン計画」に参加したのが主人公の科学者オッペンハイマーで、優秀な科学者の指揮を取り、ソ連、ドイツに先行し世界で初の原子爆弾の開発に成功します。しかし、原爆が実戦で日本に投下され、その惨状を聞いたオッペンハイマーは深く苦悩することとなります。太平洋終戦後になると、赤狩りという激動の時代の波に飲み込まれ、共産主義者という嫌疑を掛けられた。彼に対する尋問は繰り返され、原発開発の成功者の立場から、裏切り者の立場に落ちていく。その生涯を通じて、今を生きる私たちに、物語は問いかけてきます。この作品を反原発作品とみると、邦画の「ゴジラ-1.0」も同じで、このタイミングでアカデミー賞を受賞したのは、何か新しい原爆に対する動きが出るのかもしれませんが。

(純記)

★★

24年5月以降のイカス倶楽部スケジュール

★★

2024年5月以降イカススケジュール

05月01日(水): 15:00~花咲投資クラブ

05月09日(木): 13:30~日比谷会投資クラブ

05月14日(火): 16:00~ムッシュのサロン・ド・経済

05月18日(土): 15:00~スペリオール投資クラブ

05月23日(木): 15:00~東京3Eクラブ

05月30日(木): 18:30~ムッシュ望月の車座(道しるべ)

06月05日(水): 15:00~花咲投資クラブ

06月06日(木): 13:30~日比谷会投資クラブ

06月11日(火): 16:00~ムッシュのサロン・ド・経済

06月15日(土): 15:00~スペリオール投資クラブ

06月20日(木): 18:30~ムッシュ望月の車座(道しるべ)

06月27日(木): 15:00~東京3Eクラブ

投資クラブの年会費36000円、スポット参加の費用は1回3000円(消費税込み)

新設: 車座(道しるべ)、学生は1000円

会場は全てイカス事務所にて

第25回カラオケ会：24年04月26日（金）：18：00～21：00

参加費が7000円、倶楽部エル

ムッシュのサロンは朗読会とのコラボ：5月14日（火）16：00～18：00

コラボの朗読会（40分程度）講師：郷圭子氏（朗読家）

サロン・ド・知久（交流会）：参加費3000円、歩く会・特番は別料金

第36回：24年4月23日（火）18：30～21：00、サロンド知久＋誕生会、

ゼンカフェマリーナー、司会進行は郷圭子氏、7000円、限定40人

第37回：24年5月28日（火）15：00～、「サラリーマン川柳」、平野徹氏（日比谷会投資クラブ）

告：9月28日三宅あみの街歩き、座学「江戸城の歴史を知る」、六本木ヒルズクラブ

10月5日三宅あみの街歩き、「江戸城内を散策」、金額未定、場所・時間未定

第42回：イカス夏の交流会：2024年6月13日（木）午後6時～午後9時

外国特派員協会、参加費：12000円、事前振り込み：11000円

講師：元帝京大学教授・野村證券フランス現法社長・フランス倶楽部会員

山本博幸氏 「フランスはどのように人口減を抑えたか・外伝」

ゲスト：詩吟アーティスト 恵聖氏（劇場版鬼滅の刃作詞・歌唱）

NPO イカス：東京都港区新橋3-16-12 横山ビル6F

info@npo-icas.com <http://www.npo-icas.com>

会費振込先：三菱UFJ銀行新宿中央支店、普通：5313550